



きれいな花が咲きますように

滝尾小学校が仮設住宅にチューリップ

3月16日、滝尾小学校（上田晃生校長・63人）は、玉虫仮設住宅他5カ所に、児童全員で植えたチューリップをプレゼントしました。このチューリップの球根やプランターは、“神奈川ボラジェット”と“熊本大学”からの支援物資。滝尾小の子どもたちは、これでみんなを元気づけられないだろうかと思い、行動しました。玉虫仮設住宅に代表で渡した錦戸柚稀さん（小6）は「きれいな花を咲かせてください。これからもよろしくお願いします」と笑顔で話しました。



▲筑波大で感謝状を渡す藤木町長 ▲作品を運ぶ竹田津代表ら

田中憲一の画を救う会

熊本地震で損傷した洋画家、故田中憲一さんの作品の一部が修復され、町に返還されました。修復作業に声を上げたのが、千葉県絵画修復家岩井希久子さん（熊本出身）や筑波大学（保存科学分野）。筑波大で劣化防止処理などをし、42点が修復されました。町の文化関係者は、（一社）アートネットワーク熊本みふね（竹田津純代表）を設立。全ての作品を修復するために、費用支援を呼びかけています。竹田津代表は「田中先生の作品は御船の美術には、欠かせないもの。もっと作品を知ってもらいたい」と力強く話しました。

保護動物に新しい家族を～御船で譲渡会

3月18日、ホームワイド御船店の敷地内で保護動物の譲渡会が開催されました。主催したのは、ジョートフル熊本プロジェクト（旭爪利砂さん）。その他多数団体も参加。保護犬猫たちに新しい家族を見つけることを目的とし、「ジョートフル」には、「譲渡がFULL（いっぱい）！」という願いが込められています。訪れた人たちは、可愛くて元気な動物たちとふれあい、保護動物について学びました。旭爪さんは「興味がない人でも来てほしい。保護犬、保護ネコを知ってもらうこと、それをさらに広げてもらうことに意味がある」と話しました。



1,2 保護動物たちを学び、ふれあう人たち

八勢地区が緑の羽根で植樹作業

3月16日、（公社）熊本県緑化推進委員会の緑の羽根で集まった募金で八勢地区（増本憲興区長）の公園の整備を目的とした植樹作業が行われました。公園化を計画している、震災で空き地となった土地や六部堂（享保14年建立）周辺に、桜やサツキ、ツツジの計171本の苗木を地域の人たちの手でそれぞれに植えられました。増本区長は、「これからみんなで公園の名前を決めたいです。この見晴らしのいい場所が、みんなのよりどころになれば」と笑顔で話しました。



六部堂に桜の苗木を植える人たち



各種目・競技で楽しむ参加者たち

スポーツセンター復興祈念！

3月18日、フネッピーすこやかスポーツクラブ（竹内昭剛会長）主催でフネッピー・スポーツセンターまつりが開催されました。御船の歴史を学びながら歩く健康ウォーキング大会とトランポリンやヨガ、水泳など各種スポーツが体験できるコースに分かれて実施（200人参加）。参加者たちは、汗いっぱいになるまでスポーツを楽しみ、炊き出しの豚汁を食べました。町外から参加した森永寛美さんは「友人に誘われ、初めてヨガをしました。また来たいです」と笑顔で話しました。



水前寺菜を育てている山下啓四郎さんと敬和学園大学の皆さん

御船の思いを新潟へ

3月14日、新潟県の敬和学園大学の学生ボランティアコーディネーターたちが御船町を訪れ、特産品や観光地を見学しました。同大学は、1月に地元新潟で行われた「城下町しばた全国雑煮合戦」で、水前寺菜や御船川そうめんを使った復興雑煮をつくり、御船町をPRしてもらいました。今回は、実際に現地に行き、見て学び、町の人の思いを感じたいということで御船に足を運びました。同大学生の阿部咲さん（3年）は「これからも御船町の情報を新潟でも発信していきたい」と話しました。

つなぎのバレーが全国で躍進！

3月9～11日にかけて大阪市の体育館で行われた第29回全国家庭婦人バレーボールいそじ大会に上益城チームが出場しました。チームは予選で全勝しましたが、得失点差で2位グループに進出し、激戦の末、1位という結果を残しました。チームには、御船町からは青波悦子監督を含め5人の選手が出場。試合では、8点差で負けていたところ、光永留美子さんの好サーブや持ち前のつなぎのバレーで連続17得点。「全国に通用すること、優勝を狙えることが証明できた大会」と語る青波監督。大会後、チームからは「たくさんの人たちの協力があって、試合ではみんな力が出せました。感謝しかありません」と話しました。



全国で躍進したママさんたち

七滝分館で防災出前講座

3月18日、防災について地域で考えることを目的に上益城消防署による出前講座が公民館七滝分館（福嶋幸博分館長）で行われ、約60人が参加しました。講座前に、二宮晶代よつ葉の会による琴の演奏を鑑賞。参加者たちは、実演で、実際に倒れている人を想定し、周りにいる人に助けを求め、AEDを使いながら胸骨圧迫をするといった本番さながらの動作を体験しました。外では、消火器の使い方の指導が行われ、初めて使う人も上手に火点に命中。参加者たちは、防災の大切さを改めて実感していました。



町消防団第4分団長の山下俊暢さんが実演している様子